

【分科会記録】第 9 分科会

（参加人数 25 人）

分科会テーマ	学校図書館運営の実際（読書センター機能） 共につくる本との出会い①
司会	氏名 佐伯 高基（富山県高岡工芸高等学校） 氏名 多賀 陽介（富山県入善高等学校）
記録	氏名 高木 千香（長野県佐久平総合技術高等学校）

1 発表の概要

(1) 発表者氏名 吉田 輝子（富山県 新川みどり野高等学校）

「手にとり目でみて、一冊の本と出会える図書館づくり」

◎効果的な図書館案内の多角的アプローチ

- ・ 情報発信→図書日より、図書掲示板で新刊・話題の本の紹介、季節の装飾、
- ・ 空間活用→館内の書架の空きスペースに話題の本などをPOPとともに表紙を見せて展示
- ・ 企画活動→図書委員会が工夫を凝らした新刊図書のPOPづくり（学期に1回）、冊子作成、各教科の先生からの図書案内文「生徒に読んでもらいたいこの1文」を集め図書委員がパネルにイラストを描き図書館に展示

◎生徒の目線に立った取り組みが図書館に足を運ぶきっかけになっている。

◎図書委員会活動がリーダーの育成につながっている。

(2) 発表者氏名 岩崎 将展（富山県 下新川郡朝日町立朝日中学校）

「生徒が主体となる図書館運営～生徒会『図書委員会』を中心とした来館者を増やす取り組み～」

◎まずは図書館にきてもらおう

- ・ POP作成→廊下から図書館内が見える位置に「図書委員おすすめ本コーナー」を設置。
おおすすめ本にPOPをつけてコーナーに展示したところ来館者増加

・ 読書週間の取組

貸出スタンプラリー

- 本を1冊借りるごとにスタンプ1つ。スタンプ5つで図書委員特製のしおりを贈呈
大好評で普段利用しない生徒の利用促進に繋がった。

先生のおすすめ本紹介

- 給食の時間に図書委員が先生はどんな本が好きかインタビュー
多くの生徒に本の魅力を伝えられた。

・ 給食に本に出てくる料理を給食に

- 給食委員とコラボした取り組み。栄養教諭がいくつか献立を考え、生徒が食べたいも

のをアンケートで選ぶ。図書委員は料理が出てくる本の内容・場面を発表し、内容についてクイズを行った。来館者の増加につながった。

・図書館を自習室として開放

→定期考査中に開放した。自習に利用する中で本を手取ることもあった

◎来館者を増やす目的は達成できたので、貸出数を増やす、本が身近なもので生活に役立つという経験を増やす活動につなげていく

(3) 発表者氏名 平林 怜（長野県 南牧村立南牧中学校）

「南牧生の興味関心を生み出す活動に挑戦」

◎本に触れる機会を増やす。図書館が教室から遠いという不利な条件を補う工夫

・読書についてのアンケート調査

→本は好きだが図書館から借りることは少ない。家から本を持ってきて読んでいる。理由は「学校にある読みたいジャンルの本を読み終えたから」が多かった

・ブックバス訪問を実施

→ブックバスの書棚から生徒が各自好きな本を 2 冊選び、その本が無償でもらえるという古書店が行っているサービスを利用。選んだ本は学級文庫として活用。あまり本を読まないという生徒でも友だちが選んだ本に興味を持つなど、生徒に好評

・ブックトーク

→朝読書の時間を利用し月 1 回定期的に絵本のブックトークを実施。紹介された本は昇降口廊下スペースにブックシェルフを用意して展示

(4) 発表者氏名 赤松 信弘（石川県 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校）

「図書館に足を向けたくなる運営」

◎企画展示を中心とした生徒の図書館活動を推進

・司書による企画展

→誰も読まない図書展、人気の図書展、Book of the Year 展、気分転換の図書展

・生徒自治による図書推進活動

→生徒による市内書店での図書選考会を実施し、選んだ本を図書館に展示するとともに、選んだ本の書評を図書館報に掲載し全生徒に発行

・教科による実践

→国語科、公民科での実践の紹介

2 討議の概要

質疑

(1) 「手にとり目でみて、一冊の本と出会える図書館づくり」について

- ・冊子のイラスト製作者は誰か、また冊子作成の予算はいくらか（水田 山王小）

第 75 回長野県図書館大会（佐久大会）兼 第 33 回北信越地区学校図書館研究大会

→冊子のイラストは図書委員が美術部員に依頼。生徒からデータをもらい学校で印刷しているので費用は紙代程度。活動している図書委員は実質 10 名。

・蔵書構成は、また予算は。（藤田 春富中）

→読み物系が多い。リクエスト本は 20 冊くらい。SLBA のカタログから図書委員が選ぶ。教科の要望も取る。

・予算、年間購入冊数が少ないと感じる。定時制だからなのか、全日制普通科はどのくらいか。図書委員活動のモチベーションになっているものは何か。（高木 佐久平総合技術高）

→かつては年 120 万円ということもあったが、削られて 30 万円に。おとなしい委員によって図書館は居場所になっている。

→富山県は 700 人規模の高校で 50 万円くらい。新聞、雑誌も購読するので本の購入は年間 150 冊くらい。そのため新しい本に更新できない。図書費の増額を要望していきたい。

(2)「生徒が主体となる図書館運営～生徒会『図書委員会』を中心とした来館者を増やす取り組み～」について

・開放中の図書館の管理は誰がするのか。教員不在時に本の紛失の心配は。（下里 三郷中）

→各学年から 1 人教員が図書館にいるようにしている。落ち着いた学校で紛失はほとんどない。

(3)「南牧生の興味関心を生み出す活動に挑戦」について

・小 5 から中 3 がアンケート対象だが図書館は小中共用か。地域の方が図書館の本に触れる機会をつくっているのか。（河合 佐久穂町図書館）

→別々だが、司書が小中兼務。中学の文化祭に小 5・小 6 年生が参加する企画がありその際図書館を見る機会はある。

昇降口のブックシェルフは両面使用でき、絵本なら片面 15 冊くらい展示できる。来校者はだれでもブックシェルフの本を見ることが可能で、地域の人が学校に来る機会が多い

・ブックバスの運営は、利用頻度は、費用は（佐伯 高岡工芸高）

→ブックバスは村営ではない。そういう取組をしている書店がある。

村が申し込んで村内の全ての小中学校を 1 日で回ってもらっている。日程の設定は書店側の都合があり、希望する日になるとは限らない。本は無料で提供され学校側の費用はかからない。

・絵本のブックトーク 3 分は長くないか（水田 山王小）

→話すことが苦手な生徒もおり、3 分は目安の時間で短くても良い。読まなければ本について語れないので。必ず読むためには絵本の方が物語よりハードルが下がる

(4)「図書館に足を向けたくなる運営」について

- ・除籍の本はどうするのか（吉田 新川みどり野高）
→大学に問い合わせ、大学が不要なら処分
- ・除籍基準は（佐伯 高岡工芸高）
→統計が古い、10年以上貸出がない、書棚がいっぱい、過去の寄贈本（宗教団体から）
- ・寄贈本の扱いは、大学のデータベースにのるのか（佐伯 高岡工芸高）
→寄贈本も登録する。大学の図書館で登録してもらう事で高校側の事務処理の負担は軽減されている
- ・蔵書構成は（佐伯 高岡工芸高）
→新書が多い。話題の本など分類はバラバラ。

全体を通して

- ・公共図書館の立場から小・中・高校でこういうことを教育して欲しいと思う事は（加藤小海高）
→下校後に図書館で閉館まで勉強のために生徒が利用したり、本を借りている。特に学校で教育して欲しいと思う事はなく、場面に応じて利用について教えていくことは公共図書館としても課題である（波場 安曇野市図書館）
→学校図書館と町の図書館でデータを共有しているので、学校に無ければ公共図書館の本を利用できるようになっている。学校と公共で仲良くやっている。児童・生徒の利用促進を働き掛けている